

保有しているパソコンを売却した場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：事務所のパソコンの一部を売却するのですか？

先輩：そうだよ。働き方も随分と変わったから、オフィスのレイアウトを変更するんだ。

新人さん：確かにいつも全員が揃うわけではないですが、島型のレイアウトにこだわる必要もないですね。

先輩：うん、もっと自由度が高くて、コミュニケーションも取りやすいレイアウトを検討しているようだよ。

新人さん：リモートでできること、顔を合わせたほうがいいこと、いろいろですものね。ところで、業者に買い取ってもらうパソコンの処理はどうしたらいいのですか？ 売上ではないですね。

産を売却した際に、売却価額と帳簿価額の差額を処理する勘定科目です。固定資産の売却価額が帳簿価額を上回る場合は「固定資産売却益」を貸方に計上します。逆に売却価額が帳簿価額を下回る場合は「固定資産売却損」を借方に計上します。

固定資産は、会社が長期にわたって使用することを目的として所有している資産ですので、その売却にかかる損益は、販売を目的として所有している棚卸資産の売却にかかる損益とは、本質的な意味合いが異なります。

そこで、「固定資産売却益（損）」は臨時的な損益として特別損益に計上します。ただし、金額の僅少なもののや毎期経常的に発生するものは、経常損益に含めることもできます。

「固定資産売却益（損）」は、固定資産の種類や内容を示す「建物」や「備品」等の勘定科目で表示するものとされています。ただし、その名称を勘定科目で表示することが難しい場合には、注記によることも認められています。

●解説

「固定資産売却益（損）」とは、会社が保有する固定資

ケース 1

売却して利益が出た場合（売却価額＞帳簿価額）

期首に取得価額500,000円のパソコン（減価償却累計額300,000円）を275,000円（税込）で売却し、代金が普通預金口座に振り込まれた。

【借方】	普通預金	275,000	【貸方】	備品	500,000
	減価償却累計額	300,000		備品売却益	50,000
				仮受消費税等	25,000

ケース 2

売却して損失が出た場合（売却価額＜帳簿価額）

期首に取得価額500,000円のパソコン（減価償却累計額300,000円）を165,000円（税込）で売却し、代金が普通預金口座に振り込まれた。

【借方】	普通預金	165,000	【貸方】	備品	500,000
	減価償却累計額	300,000		仮受消費税等	15,000
	備品売却損	50,000			